

男性看護師のケアの受け入れに関する研究

—当院男性看護師の面接から—

東病棟 2 階 ○多間嗣朗 牧田初枝 久保京子 中川智絵 竹内清華 越野みつ子

Key word: 男性看護師 ケア 羞恥心

I. はじめに

近年、男性看護師が増加してきており、一般社会にも男性看護師の存在が認識されてきたが、まだ少数派の域を出ない現状である。そのため男性看護師に清潔・排泄援助を受けることに抵抗を感じて断る患者や、断れずに我慢する患者も存在する。

先行研究では男性患者も女性患者もケアの提供者には女性看護師を望む傾向があり¹⁾、約 7 割の男性看護師が、羞恥心を伴うケアを断られた経験がある²⁾と述べている。研究者自身もケアを断られた経験があり、葛藤を感じていた。そこで他の男性看護師がどのようにケアを行っているか調べてみたが具体的に調査した報告はない。

今回、当院男性看護師にケアの受け入れや方法について面接調査を行い、男性看護師がケアにどう関わっていけばよいのか検討した。

II. 用語の定義

本研究で用いるケアとは日常業務で、羞恥心を伴い、男性看護師がよく断られる清潔・排泄援助とする。

III. 目的

当院男性看護師のケアの受け入れ状況を知り、その悩みや葛藤を分析し、ケアの関わり方や病棟からのサポートについて明らかにする。

IV. 研究方法

1. 対象：同意の得られた当院男性看護師 14 名
2. 調査期間：平成 17 年 8 月～平成 17 年 9 月
3. 調査方法：同意の得られた対象者に研究者 2 名で 30 分程度の構成的面接を行った。その際、対象者に承諾を得て面接内容を録音した。その後、逐語録を作成し KJ 法を用いて分析した。

質問内容は①ケアを断られた経験の有無②ケアを行う時の説明と承諾③ケアを行う上で心がけていること④ケアを断られた時の思い⑤ケアを断られた理由⑥最初断られたがケアを受け入れてもらえるようになった

理由⑦病棟のサポート状況及びやむを得ずケアをしなければならぬ時の対応について質問した。

4. 倫理的配慮：同意書・説明書を対象者に配布し、同意の得られた対象者にプライバシーを保つことのできる部屋で面接を行った。結果は研究以外に使用しないこと、録音テープは研究結果がまとまり次第、消去・破棄することを説明し、個人が特定できないように配慮した。

V. 結果

1. 対象者の概要

年齢 33.9±10.4 歳、臨床経験年数 10.5±8.3 年であった。配属科は精神科 5 人、手術部 2 人、救急部・ICU 2 人、血液浄化部 2 人、重症回復室 2 人、内科 1 人であった。

2. 男性看護師のケアの受け入れについて (表 1)

1) ケアを断られた経験の有無

ケアを断られた経験がある人は 10 人(71%)、経験がない人は 4 人(29%)であった。

2) ケアを行う時の説明と承諾

全員が、自分がケアをしてよいか聞いていた。しかし承諾の段階では〈患者の状態によって十分な同意を取れない場合がある〉〈患者の希望にそってケアを行う〉の 2 つに分類できた。

3) ケアを行う上で心がけていること

〈緊急時考慮しない〉〈ケアを行う時の工夫〉〈患者との信頼関係を築く〉〈女性看護師に協力を求める〉の 4 つに分類できた。

4) ケアを断られた時の思い

〈受け入れられるためにどう説明したらいいかわからない〉〈男性看護師であることへの無力感〉〈女性看護師に交代したほうが患者の立場から考えると良い〉〈女性患者が男性看護師からのケアを断るのは仕方のない事だと思う〉の 4 つに分類でき、前者 2 つは 20 代男性看護師、後者 2 つは 30 代以上の男性看護師が多かった。

5) ケアを断られた理由

ケアを断る患者はほとんどが女性であったが、男性からも断られることがあった。年代別にみると 10 代、20 代の若い女性に限らず高齢者も多かった。ケアを断る理由としては〈羞恥心がある〉〈男性からケアを受けるのが申し訳ない〉〈患者に身体的・精神的

に余裕がない)の3つに分類できた。

6)最初断られたがケアを受け入れてもらえるようになった理由

〈患者と信頼関係ができた〉〈患者に身体的・精神的に余裕がでてきた〉〈男性看護師への理解〉の3つに分類できた。

7)病棟のサポート状況

〈勤務上配慮がある〉〈女性看護師の交代体制がある〉〈女性患者のケアをさせない〉〈やむを得ず行う状況がある〉の4つに分類できた。

VI. 考察

1. ケアを断られた経験の有無について

先行研究と同様に7割の男性看護師がケアを断られた経験があると答えており、男性看護師がケアを断られることがあるということを認識し、サポートが必要であると考えられる。

2. ケアを行う時の説明と承諾について

男性看護師はケアを行う必要性や自分が行ってもよいかを聞いていた。松田ら³⁾は「男性看護師は、女性との差異を常に意識している」と述べている。また船橋ら⁴⁾は「従来、女性看護師が患者に身体接触を伴う処置を施す場合には、鋭く自覚されて来なかったが、男性看護師が登場する事で、より厳しくインフォームドコンセントが追求されるようになる」と述べている。女性看護師にも患者のケアにあたっては配慮が求められると考える。

3. ケアを行う上で心がけていることについて

男性看護師はケアを行う時に、〈ケアを行う時の工夫〉として「なるべく素早く丁寧に」「清拭の時にマッサージする」などを行っていた。橋本ら⁵⁾は「男性看護師よりケアを受けた経験がある方が、実際にケアを受けた事がない者より、女性看護師に代わってほしいと答えた割合が低い」と述べており、実際に男性看護師からケアを受けることで理解が深まり、ケアの受け入れにつながると考えられる。

4. ケアを断られた時の思いについて

30代以上の男性看護師では拒否されても仕方ない、または交代したほうが良いとケアを断られることを当たり前のこととして受け止め、20代に見られる無力感や葛藤はなかった。

松田ら³⁾は、「男性看護師は多数の異性とは異なる性役割の発揮に価値を見出し、あらゆる状況においてそれを発揮できるように心がけている」と述べている。若い年代では性役割をしっかりと見出せていないため、ケアを拒否されると無力感や戸惑いを抱くが、経験を積むにつれ、男性看護師としての価値観を見出すことで、ケアを拒否されても否定的な感情を抱くことなく受け入れることができると考えられる。

5. ケアを断られた理由について

ケアを断られた理由は羞恥心によるものが多く、断る患者の年齢には偏りがなかった。橋本ら⁶⁾は「男性による看護が羞恥心を生じさせているのではなく、女性・男性看護師であっても羞恥心が起こりうる」と述べている。ケアを断られるのは、羞恥心によるものであるが、羞恥心を生じさせるのは看護師の性差だけではなく、個性や技術によるものもあるのではないかと考える。

6. 最初断られたがケアを受け入れてもらえるようになった理由について

患者との信頼関係や男性看護師への理解などが理由としてあがり、中には「マッサージを行っていたら自分から清拭を頼むようになった。」という意見もみられた。佐藤ら⁶⁾は「患者が安心して検査や治療を受けることができたと感じ、看護婦が自分の状態をよく知ってくれていると思えるには『患者への接近』なくしては成し得ないことである」と述べている。患者に触れることで、異性であることで生じる羞恥心が取り除かれると同時に、コミュニケーションによって男性看護師への理解が深まった結果だと言える。男性看護師の積極的な関わりが受け入れを可能にすると考えられる。

7. 病棟のサポート状況について

対象者の一人は「男性看護師が一人の時は遠慮があったが徐々に増えてきて、サポートを自然に求める雰囲気変わった」と答えていた。船橋ら⁴⁾は「少数派であるが故の困難としてもめずらしいため、ちょっとした失敗や成功が過剰に性別と結び付けられて誤解されてしまうことがある。」と述べている。男性看護師一人の場合は、ケアを拒否されても個人の問題として捉えられがちだが、男性看護師が複数いると男性看護師特有の問題として女性看護師の理解が得られやすいのかもしれない。また一人より複数いた方が、同じ悩みを共有することができ、ケアを断られたら女性看護師に頼んでもよいのだという気持ちが持てるようになり、無力感から早く解放されると考えられる。

対象者の約半数が、女性看護師がいないなどの理由によりやむを得ない状況でケアを行わなければならない経験があると答えた。その場合、説明を行った後ケアを受け入れられていたが、これは「男性看護師しかいないのだから仕方ない」という諦めからの同意であり、できればそのような状況は避けたいと考える。杉浦ら⁷⁾は「20代の男性患者は男性看護師による陰部洗浄や清拭、床上排泄のケアを希望している」と述べており、女性看護師が若い男性患者のケアを行う時には男性看護師に交代する方がよいと考える。病棟に男性看護師が存在することで、患者からのニーズに応えることができ、患者に選択肢のある看護を提供できると考えられる。

今後も男性看護師の増加が予測される。そのため男

性看護師の存在をアピールするために、入院時に男性看護師が配属されていることを説明する事や一人で悩まず、病棟で話し合える環境を作っていく必要があると考える。今回の研究を通して、ケアを断られたとしても、時間をかけて信頼関係を築いていくことでケアを受け入れられることがわかった。

Ⅶ. 結論

1. 当院男性看護師の約7割がケアを断られた経験があった。
2. ケアを断られた経験のある20代の男性看護師は全員が無力感を感じていた。
3. 最初ケアを断られたとしても、信頼関係を築くことや、男性看護師への理解を深めることによりケアを受け入れてもらうことが可能である。
4. 病棟のサポートには勤務上の配慮があり、女性看護師と交代できる体制がある。

表1 男性看護師のケアの関わりについての面接結果

質問内容	分類	語りの内容
ケアを行う時の説明と承諾	〈患者の状態によって十分な同意を取れない場合がある〉	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科は病状で断ることはある。 ・説明はするが、100%了承を得られているか確信はない。 ・認知症の方の了承は得ていない。
	〈患者の希望にそってケアを行う〉	<ul style="list-style-type: none"> ・準備前に、1日1回行いたいことを伝えてできるだけ患者さんのしてほしい時に合わせて行う。 ・最初は僕でいいですかって聞くが、お互い慣れてくると「じゃあしますよ。」ってやることもある。 ・体はいいけど陰部は代わってと言う人もいる。 ・ケアの前にこれからしますけどいいですかと声をかけて、反応を見て行っていく。 ・今日は男性看護師だということをアピールしなければならないので、今日の予定を全部10時頃に清拭するなど説明をした上で入ります。
ケアを行う上で心がけていること	〈緊急時考慮しない〉	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的苦痛が大きい分、性とかそういう意識は優先されないとします。・緊急では年齢はない。
	〈ケアを行うときの工夫〉	<ul style="list-style-type: none"> ・生理ケアは女性に交代できる余裕があるケアなのでしない。自分の信念です。 ・受け持ってもらって良かったということをしなくて仕事しがいがない。 ・中年以下とか若い女性では必ず聞いていた。もし嫌だったら看護婦さんと交代しますって感じて強く押すことはしない。・意識がはっきりしている時は極力携わらない。 ・なるべく素早く丁寧にする。オムツを開いている時間を短く、なるべく声をかけながら行う。 ・断わられればお時間を置いてみる。 ・女性の患者さんに排泄ケアや清潔ケアをこっちらから行わないようにしている。 ・無意識に清拭の時に肩とか足とかマッサージしてたんです。その間は喋ってくれるので良い方法ですわ。
	〈患者との信頼関係を築く〉	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係ができていたら、高齢の女性なら男の人に対して遠慮の思いがあっても受け入れられると思う。 ・信頼関係をいかに築けるか。
	〈女性看護師に協力を求める〉	<ul style="list-style-type: none"> ・服を脱がす時や10代や20代の女性と一緒にいる人に任す。 ・若い人やこの人は駄目かなという人には最初から女性看護師に行ってもらおう。 ・女性の方は先に女性にお願している。断ることは女性患者さんも良い思いはしないので先に代わってもらおうようにしています。 ・ケアはなるべく二人以上で行うようにしている。
ケアを断られた時の思い	〈受け入れられるためにどう説明したらいいかわからない〉	<ul style="list-style-type: none"> ・どういう風に説明したり促せば、と考えたりします。妄想とか清潔ケアを症状によって障害されるとき、どういう風に説明していいかの答えはひとつもないと思いますし、迷いますね。
	〈男性看護師であることへの無力感〉	<ul style="list-style-type: none"> ・仕方ないことだけど、男であることが劣っているとかできないことがある。 ・同じ資格をもっているのにどうして男性は駄目なんだろうと思った。 ・最初は心に葛藤があって、医学生には平気なのに、看護師はなんで駄目なんだと考える時があった。 ・自分が受け入れられてないとか、役に立っていないとか、患者さんに不快感をさせているっていう思いはしますね。

	〈女性看護師に交代したほうが患者の立場から考えると良い〉	・残念な思いより患者がより良くケアを受けられるために、女性看護師に代わったと思うことで女性の患者様のために良かった、不快な思いをさせなくてよかった。
	〈女性患者が男性看護師からのケアを断るのは仕方のない事だと思う〉	・説明して時間を費やすより女性に代わってもらったほうが業務の無駄がない。 ・若い人は羞恥心が強いから無理だと思う。 ・納得するっていうのはすごく難しく頭ではわかっているけど時間が経って考えれば当然だし、まあ仕方のないことかな。 ・自分で考えれば、異性からそんなことをしてもらうのは恥ずかしいですし、自分に置き換えてみれば当たり前かなって少しずつ考えは変わってきました。
ケアを断られた理由	〈羞恥心がある〉	・一番は羞恥心ではないかと考えている。 ・恥ずかしいと言われて断られたことはしよつちゅうある。
	〈男性からケアを受けるのは申し訳ない〉	・昔の男尊女卑の中で過ごしてきた人は、男の人にこんなことしてもらうのは申し訳ないと言う。 ・男性患者でも男の人にそんなことしてもらうのが気兼ねやって言う人もいます。 ・体拭くって言ったら、先生にそんなことしてもらったら気の毒だからって言われた。
	〈患者に身体的・精神的に余裕がない〉	・病気によるものもあるでしょう。 ・羞恥心とかじゃなくて体がひどいとかそういう意味で断られることはありました。
最初断られたが受け入れてもらえるようになった理由	〈患者と信頼関係ができた〉	・患者と看護師との信頼関係ができてきた。 ・最初に来たときにその人の気持ちをどうつかせかだと思ふ。 ・恥ずかしいというのがあって最初は断られていたんですけど、いつもそのような患者さんには上半身というか肩くらいまでマッサージをするんです。その間喋ってくれるので、続けていくと返ってくる言葉も違ってきて、心を開いていくのがわかった。
	〈患者に身体的・精神的に余裕ができた〉	・状態の悪い人が落ち着いてくると精神的に余裕が出てきて、拒否していたけど受け入れてくれる人が出てきた。
	〈男性看護師への理解〉	・こういうのも僕らの仕事なんぞで言ってケアさせてもらう。 ・ベッドの上で寝ながら、仕事しているところが見えるので、「この人も女のひとと一緒に仕事しとるんだな」とわかってくれるようになった。
病棟のサポート状況	〈勤務上配慮がある〉	・最初から頼みにくい雰囲気はなくて自分は遠慮していたが、後から入ってきた人たちが初めから女性に頼んだほうが良いと、考える人が増えてきた。 ・最初、男1人だったが、だんだん増えて4人くらいになって話し合ったわけではないが、知らない間に雰囲気が変わってきた。 ・僕ともう1人の男性の看護師は一緒に組まないようにしているっていうのは聞いたことがある。
	〈女性看護師の交代体制がある〉	・朝、声かけてくれて、先輩に配慮してもらっているんで、悩むことなくスムーズに行えている。 ・女性もいるよと言うと、じゃあ代わってと言う時、頼むと嫌がらずにしてもらえる。 ・若い女性には最初から私が行くわって言われることもしばしばあります。 ・服脱がすとき、10代、20代の女性は一緒についている人に任す。
	〈女性患者のケアをさせない〉	・男性が女性のケアをするのは了承を得ていても駄目と言う人がいた。
	〈やむを得ず行う状況がある〉	・他の看護師さんは今手が離せない、手が空くまで待つと時間がかかると説明して納得してもらいケアさせてもらった。患者さんも結構不快な状況で待てる状態じゃなかった。 ・20歳の女性に、僕は見ないから尿器あててしなさいって。「あの時、本当はやりたくなかったのにさせられた」って最後まで言っていました。 ・とにかく短い時間ですということを説明した。

引用文献

- 井出彰他：一般病棟における男性看護師のイメージに関する調査，共済医報，52（3），p246-249，2003.
- 百田武志他：男子看護者のかかえる問題，看護学雑誌，62（3）p280-283，1988.
- 松田安弘他：看護における性の異なる少数者の経験，看護研究，37（3）p55-63，2004.
- 船橋恵子：看護とジェンダー，看護教育，42（1），p14-18，2001.
- 橋本亘弘他：男性看護師のケアに対する女性患者の感じ方に関する調査，第34回看護総合，p233-235，2003.
- 佐藤真由美他：看護婦の配慮や対応についての患者満足度，第32回看護管理，p273-275，2001
- 杉浦太一：男子看護学生との関わりから，男性看護師が教員であることの意味を探る，看護教育，45（11），p1043-1047，2004.